

# 第26回 高槻ミュージーズキャンパス 公開講座

## 高槻の地震災害 ～南海トラフの地震と内陸地震～

関西大学社会安全学部は設立8年目となり、  
高槻ミュージーズキャンパス公開講座も今回で26回目となりました。

今回は、「高槻の地震災害～南海トラフの地震と内陸地震～」を総合テーマに、  
100年～150年に一度、繰り返し発生している南海トラフ全体への地震予知体制の拡大可能性と  
大阪にどういった影響が出るのかをお話します。

また、1927年に発生した北丹後地震では、大被害をもたらしましたが、住民の英知と努力により、  
震災約1年後には新市街地が復興しており、現代につながる教訓となっています。

高槻市には有馬高槻断層帯が走っており、内陸直下型地震とは無縁ではないため、  
地形地質や活断層の特徴等を明らかにし、地震による被害と減災を一緒に考えていきます。

日時

2017年**11月18日(土)** 9:30～12:30  
(開場・受付 9:00～)

会場

関西大学 高槻ミュージーズキャンパス  
西館 M602教室

大阪府高槻市白梅町7番1号

定員

100名

受講料  
(資料代)

500円

対象

一般市民

講座  
1

### 南海トラフ巨大地震と 地震予知

関西大学 社会安全学部 教授 林 能成

講座  
2

### 丹後震災の教訓から 高槻市の減災を考える

佛教大学 名誉教授 植村 善博



# 高槻の地震災害～南海トラフの地震と内陸地震～

## 講座1 南海トラフ巨大地震と地震予知

関西大学 社会安全学部 教授 林 能成

南海トラフでは100～150年に一度、巨大地震が繰り返し発生しており、大阪でも次の地震への備えが叫ばれている。この南海トラフの一部を構成する駿河湾周辺では「東海地震」の発生が切迫しているという説にもとづき、1976年から地震予知をめざした観測・防災体制が構築された。この体制は世界に例がないもので、現在ではその実効性を疑問視する意見も強い。南海トラフ全体への地震予知体制の拡大可能性と大阪への影響について考える。

## 講座2 丹後震災の教訓から高槻市の減災を考える

佛敎大学 名誉教授 植村 善博

1927年北丹後地震は死者2,925名、全壊家屋4,899戸、全焼2,019戸という大被害をもたらした内陸直下型地震である。この地震では住民の英知と努力により震災約1年後には新市街地が復興しており、その取り組みには現代につながる重要な教訓がある。

高槻市には有馬高槻断層帯が東西に走り内陸直下型地震とは無縁ではない。この地域の地形地質および活断層の特徴、都市の歴史と構造を明らかにし、直下型地震による被害と減災の方法を考える。

※事情により内容に変更が生じる場合があります。

### 申込み方法

関西大学高槻ミュージズオフィス

電話またはインターネット専用ページでお申込みください。

◎ 電話：072(684)4000 (平日/10:00～16:00)

◎ 「関西大学社会安全学部」ホームページの「公開講座(第26回)開催のお知らせ」からお申し込みください。

(URL)[http://www.kansai-u.ac.jp/Fc\\_ss/](http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/)

### 受付期間

2017年10月17日(火)～11月17日(金)

※定員になり次第、申込み受付終了

### 受講料

500円 (資料代として当日、受付にてお支払いください)

### お願い

- 車やバイクでのご来場はご遠慮願います。公共交通機関をご利用ください。
- キャンパス施設内は、全面禁煙です。ご協力をお願いいたします。

### 問合せ

関西大学高槻ミュージズオフィス

TEL. 072(684)4000 [月～金 9:00～17:00]

会場：関西大学高槻ミュージズキャンパス



JR高槻駅から徒歩約7分 阪急高槻市駅から徒歩約10分